

平成22事業年度

# 財務レポート



国立大学法人 長崎大学

# 目次

国立大学法人会計のしくみ	… 1
決算の概要	… 3
財務諸表の関連図	… 4
貸借対照表の概要	… 5
損益計算書の概要	… 7
キャッシュ・フロー計算書の概要	… 10
利益の処分に関する書類の概要	… 11
国立大学法人等業務実施コスト計算書の概要	… 12
決算報告書の概要	… 13
主な財務指標	… 14

## 財務レポートの作成にあたって

国立大学法人会計の意義は、国立大学法人等の財政状態及び運営状況を適切に反映した財務諸表を作成・開示することにより、国民や社会への説明責任を果たし、同時に業務実績の適正な評価に資する情報を提供することとされており、財務諸表等は官報及び本学のホームページで公表しているところです。

HPアドレス( <http://www.nagasaki-u.ac.jp/ja/about/disclosure/legal/open/index.html> )

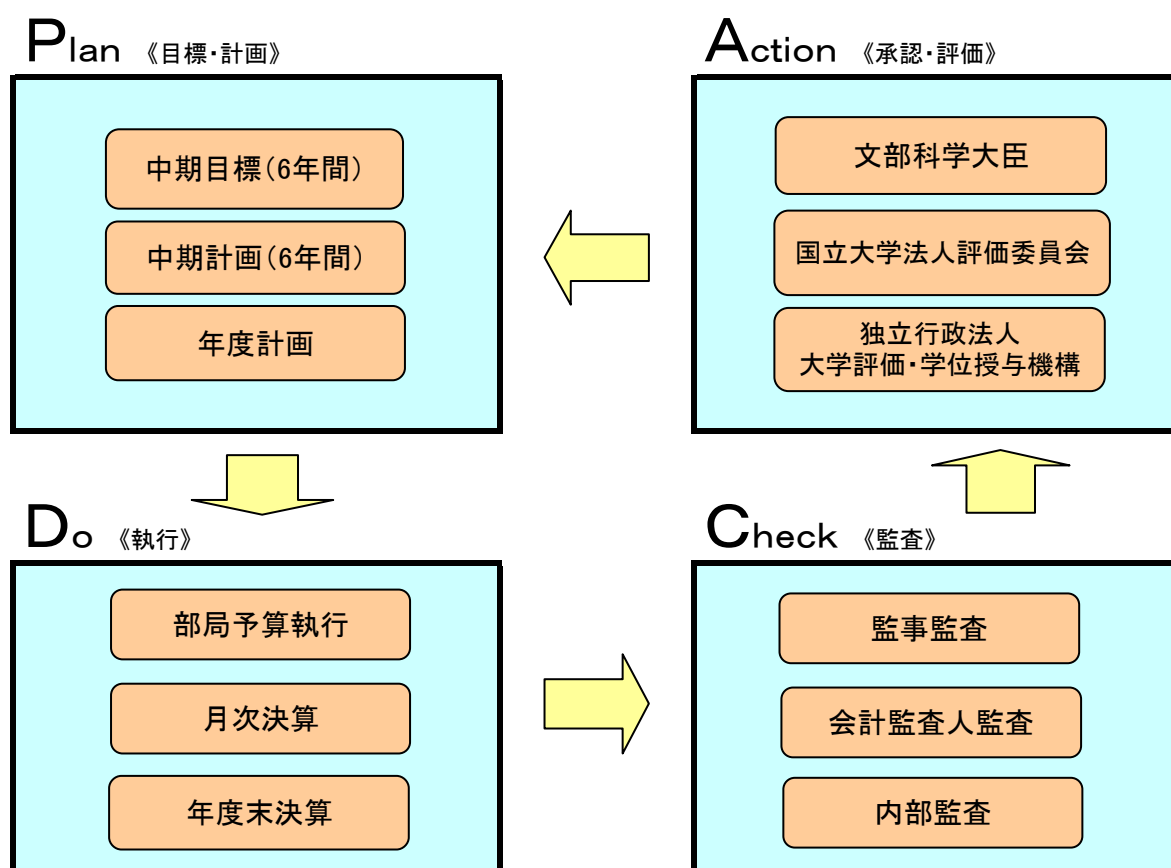
国立大学法人は「国立大学会計基準」に基づき会計処理を行っています。  
本基準は企業会計に準拠しているとはいえ、多少異なる特徴的な会計処理を行っていることから、公表されている財務諸表だけでは、財政状態及び運営状況を理解し難い面があります。

そこで、この財務レポートにて、公表している財務諸表をなるべくわかりやすく解説し、ご理解いただくことを目的として作成いたしました。

国立大学法人長崎大学 財務部

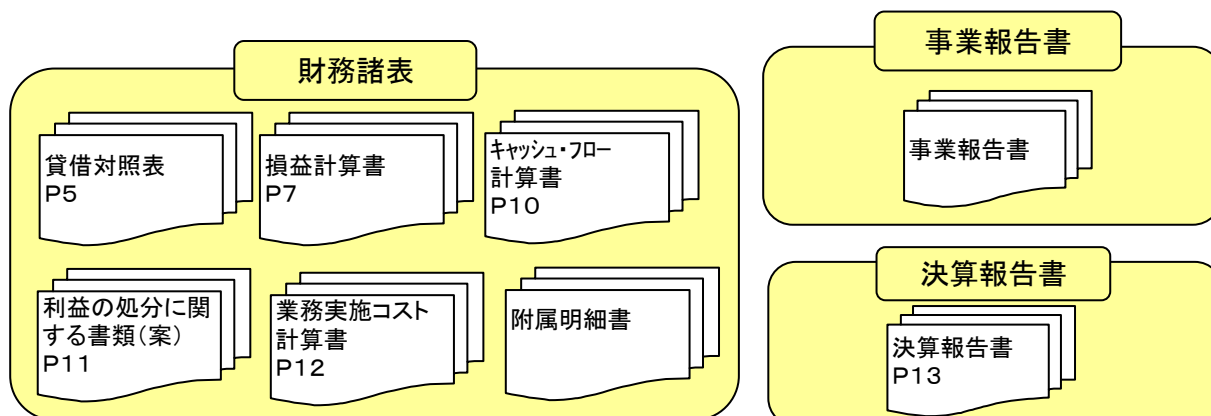
## 国立大学法人会計のしくみ ①

- ・国立大学法人は、大学の基本理念や特性を踏まえた6年間の中期目標を達成するため、具体的に計画した中期計画及び年度計画に基づいて大学運営を行っています。
- ・国立大学法人は、国立大学法人会計基準を基に各会計処理を行っており、複式簿記を採用しています。その結果として財政状態や運営状況を明らかにした財務諸表を年度末に作成しています。
- ・作成された財務諸表は、事業報告書及び決算報告書を添え、監事並びに会計監査人の監査を受けた後、6月末日までに文部科学大臣へ提出します。
- ・文部科学大臣は、提出された財務諸表等の承認を行います。また、中期目標に掲げた目標を達成するための中期計画及び年度計画が遂行されているかを総合的に評価します。



### 【年度末決算時に必要な提出書類】

毎事業年度終了後、文部科学大臣へ提出する書類は下記のとおりです。



国立大学法人会計は、企業会計とは多少異なる会計処理を行っており、通常の運営を行った場合、損益が均衡する仕組みとなっております。以下で主な特徴を説明します。

### 1. 受け入れたものは、一度負債として計上される！

受け入れを行った運営費交付金、学生納付金、補助金、寄附金、受託研究費等は、すぐに損益計算書上の「収益」とはなりません。

本学が、国や学生、寄付者の皆様に対して、サービスの提供等、行わなければならない「義務」を負ったということから、貸借対照表上の「負債(流動負債)」として計上します。

(流動負債例: 運営費交付金債務、授業料債務、寄附金債務 等)

貸借対照表

資産	負債
《固定資産》	《固定負債》
	《流動負債》
《流動資産》	授業料債務
現金及預金	100
100	純資産

《仕訳例》 現金及預金100 / 授業料債務100

### 2. 資産を取得したら、流動負債から固定負債へ振り替える！

資産を購入した時には、受け入れ時に流動負債として計上した〇〇債務を、固定負債である資産見返〇〇へ振り替えます。

(固定負債例: 資産見返運営費交付金等、資産見返寄附金 等)

貸借対照表

資産	負債
《固定資産》	《固定負債》
工具器具備品	資産見返運営費交付金等
0 → 60	0 → 60
《流動資産》	《流動負債》
現金及預金	授業料債務
100 → 40	100 → 40
	純資産

《仕訳例》 工具器具備品60 / 現金及預金60  
 授業料債務60 / 資産見返運営費交付金等60

### 3. 資産の減価償却や費用の発生に併せて負債の収益化を行う！

#### 固定負債の収益化！

資産取得時において、固定負債に振り替えたもの(資産見返〇〇負債)は、資産価値を減少させる減価償却費と同額を収益勘定(資産見返負債戻入)へ振り替えます。

《仕訳例》 研)減価償却費10 / 減価償却累計額10  
 資産見返運営費交付金等10 / 資産見返運営費交付金等戻入10

#### 流動負債の収益化！

流動負債については、費用が発生した相当額を流動負債から収益勘定へ振り替えます。

(収益勘定例: 運営費交付金収益、授業料収益、寄附金収益 等)

《仕訳例》 教)消耗品費40 / 現金及預金40  
 授業料債務40 / 授業料収益40

貸借対照表

資産	負債
《固定資産》	《固定負債》
工具・器具備品	資産見返運営費交付金等
60	60 → 50
減価償却累計額	
0 → ▲10	
《流動資産》	《流動負債》
現金及預金	授業料債務
40 → 0	40 → 0
	純資産

費用	収益
《経常費用》	《経常収益》
教育経費	授業料収益
(消耗品費)	0 → 40
0 → 40	
研究経費	資産見返運営費交付金戻入
(減価償却費)	0 → 10
0 → 10	

# 決算の概要

貸借対照表 P5

(単位:億円)

財政状態	資産	負債
	1,244	547
		純資産
		696

貸借対照表って何？

貸借対照表とは、決算日(3/31)における、**財政状態**を明らかにするものです。

何がわかるの？

本学が、**今年度の3/31現在**で資産をどれだけ保有し、負債をどれだけ抱え、その結果、**純資産**がどのようになっているのかわかります。

損益計算書 P7

活動状況	費用	収益
	472	473
	当期総利益	
	1	

損益計算書って何？

損益計算書とは、一会計期間における本学の**運営状況**を示したものです。

何がわかるの？

**金額面から見た今年1年間の活動内容**がわかります。

《例》

- ・費用では教育経費でいくら使用したのか？
- ・収益では授業料収益をいくらあげることが出来たのか？
- ・最終的には損益均衡を原則としつつも自助努力によりあげた利益額がわかります。

キャッシュ・フロー計算書 P10

資金の流れ	業務活動	61
	投資活動	▲ 91
	財務活動	▲ 7
	資金増加・減少額	▲ 37
	資金期首残高	148
	資金期末残高	111

キャッシュ・フロー計算書って何？

キャッシュ・フロー計算書とは、一会計期間における**キャッシュ(お金)のフロー(流れ)**を一定の活動区分別に表したものです。

何がわかるの？

固定資産取得や借入・返済等の現金の受払が表示されているので、**貸借対照表や損益計算書からは読み取ることができない資金の流れの状況**がわかります。

国立大学法人等業務実施コスト計算書 P12

国民負担	業務に要したコスト	控除額
	504	▲ 295
	業務実施コスト	209

業務実施コスト計算書って何？

業務実施コスト計算書とは、本学の業務運営を行うにあたり、**納税者である国民の皆様からどれだけ負担**をしていただいたのかわかります。

決算報告書 P13

	予算額	決算額	差額	
収入・支出の状況	収入	485	512	27
	支出	485	491	5
	差額	0	21	21

決算報告書って何？

決算報告書とは、1年間の収入及び支出の状況を国の会計ルールに準じた予算区分に応じて作成したものです。年度計画時に立てた収入と支出の見込額(予算額)がどのような結果(決算額)であったかを示したものです。

何がわかるの？

**計画(予算)に対する結果(決算)**や、予算区分に応じた**執行状況**がわかります。

## 財務諸表の関連図

(単位:百万円)

貸借対照表

資 産	負 債
124,465	54,783
	純資産
	69,682
現金及び預金 (定期預金除) 11,113 (内数)	当期未処分利益 131 (内数)

キャッシュ・フロー計算書

資金期首残高	14,814
業務活動	6,132
投資活動	▲ 9,112
財務活動	▲ 721
資金期末残高	11,113

損益計算書

経常費用+臨時損失	経常収益+臨時利益
47,212	47,335
	国から措置された 収益以外の収益 (自己収入) 29,500 (内数)
【当期総利益】	前中期目標期間繰越積立金取崩額
131	8

業務実施コスト計算書

損益計算書の費用	国から措置された 収益以外の収益 (自己収入)
47,212	29,500
損益外減価償却・機会費用等	業務実施コスト
3,203	20,915

利益処分に関する書類(案)

利益処分量	131
・積立金	0
・目的積立金	131

## 貸借対照表の概要

貸借対照表って何？

貸借対照表とは、決算日(3/31)における、財政状態を明らかにするものです。

何がわかるの？

本学が、今年度の3/31現在で資産をどれだけ保有し、負債をどれだけ抱え、その結果、純資産がどのようになっているのかわかります。

### 貸借対照表(要約)

(単位:百万円)

資産の部				負債の部			
	21年度	22年度	増減額		21年度	22年度	増減額
<b>〈固定資産〉</b>	<b>107,332</b>	<b>108,274</b>	<b>942</b>	<b>〈固定負債〉</b>	<b>39,734</b>	<b>40,871</b>	<b>1,137</b>
土地	42,661	42,532	▲ 129	資産見返負債	10,708	11,246	538
建物	42,851	45,007	2,156	長期借入金	22,691	23,715	1,024
工具器具備品	9,960	9,881	▲ 79	長期未払金	1,806	1,909	103
建設仮勘定	3,705	2,321	▲ 1,384	その他	4,528	4,000	▲ 528
その他	8,154	8,531	377				
<b>〈流動資産〉</b>	<b>19,580</b>	<b>16,191</b>	<b>▲ 3,389</b>	<b>〈流動負債〉</b>	<b>15,596</b>	<b>13,911</b>	<b>▲ 1,685</b>
現金及び預金	14,821	11,119	▲ 3,702	運営費交付金債務	0	471	471
未収附属病院収入	4,022	4,330	308	寄附金債務	2,612	3,046	434
たな卸資産等	324	335	11	前受受託研究費等	428	253	▲ 175
その他	412	406	▲ 6	未払金	10,486	7,781	▲ 2,705
				その他	2,068	2,356	288
<b>資産合計</b>	<b>126,913</b>	<b>124,465</b>	<b>▲ 2,448</b>	<b>負債計</b>	<b>55,331</b>	<b>54,783</b>	<b>▲ 548</b>
				<b>純資産の部</b>			
					21年度	22年度	増減額
				資本金	56,219	56,189	▲ 30
				資本剰余金	9,593	8,840	▲ 753
				利益剰余金	5,769	4,652	▲ 1,117
				<b>純資産計</b>	<b>71,582</b>	<b>69,682</b>	<b>▲ 1,900</b>
				<b>負債・純資産合計</b>	<b>126,913</b>	<b>124,465</b>	<b>▲ 2,448</b>

※百万円未満は切り捨てのため、それぞれの合計額は一致しない場合があります。

#### 【資産の部】

平成22年度は、固定資産において職員宿舍の敷地売却に伴う「土地」の減少や、病院再開発に伴う本館改修一部竣工に伴い「建物」が増加したこと等により総額で約1,082億円となり、対前年度比約9億円増加しました。

流動資産においては、前期末の未払金を当期に支出したこと等により「現金及び預金」が減少したことで、総額で約161億円となり対前年度比約33億円減少しました。

#### 【負債の部】

平成22年度は、固定負債において病院再開発に伴う「長期借入金」の増加や、「その他」において会計基準の改訂による資産除去債務の新規計上等により総額で約408億円となり、対前年度比約11億円増加しました。

流動負債においては、翌期使用予定の「運営費交付金債務」の増加や、病院再開発に伴う本館改修一部竣工に伴う「未払金」の減少等により総額で約139億円となり、対前年度比約16億円減少しました。



## 貸借対照表の主な増減要因

・前年度と比較した主な増減要因は以下のとおりです。

<b>資産の部</b>	<b>124,465 百万円</b>	<b>▲ 2,448 百万円 減少</b>
-------------	--------------------	-----------------------

土地	42,532 百万円	▲ 129 百万円 減少
建物	45,007 百万円	2,156 百万円 増加
工具器具備品	9,881 百万円	▲ 79 百万円 減少

◎土地・建物・工具器具備品とは、本学が行わなければならない教育・研究・診療等の事業に必要な基盤となる資産のことです。

- ・土地については、職員宿舍の敷地売却及び平成24年度以降に売却予定地の減損処理により減少しました。
- ・建物については、病院本館改修工事に伴う一部竣工等に伴い増加しました。
- ・工具器具備品については、新規資産取得による増加がありましたが、減価償却費の増加に伴い総額としては減少しました。

建設仮勘定	2,321 百万円	▲ 1,384 百万円 減少
-------	-----------	----------------

◎建設仮勘定とは、建物等の建設を行う場合において建物等が完成するまでに要した支出額を計上する勘定のことです。建物等が完成した際には、この建設仮勘定から適切な勘定(建物等)に振り替えなければなりません。

- ・平成22年度は、病院本館改修工事やバイオメディカル・リサーチセンターの増改築工事、サイエンス・テックラボの新営工事により増加しましたが、病院本館改修の一部竣工に伴い建物等への振替処理を行ったことで大幅に減少したため、最終的には減少しました。

現金及び預金	11,119 百万円	▲ 3,702 百万円 減少
--------	------------	----------------

◎貸借対照表に計上される現金及び預金(3/31現在)は、翌期に支払いに充てる予定の未払金と寄附金等の外部資金の繰越額がそのほとんどを占めています。

- ・平成22年度は、6月の病院本館一部竣工を控えた平成21年度末時の多額の工事の未払金を平成22年度に支出したこと等により減少しました。

たな卸資産等	335 百万円	11 百万円 増加
--------	---------	-----------

◎たな卸資産等とは、重油等の燃料や切手等の金銭等価物及び医薬品・診療材料等のことで、期末時の残数量に基づいた額を計上しています。従ってたな卸資産等は、受け払い簿を用いて記録し管理する必要があります。

<b>負債の部</b>	<b>54,783 百万円</b>	<b>▲ 548 百万円 減少</b>
-------------	-------------------	---------------------

資産見返負債(「資産見返運営費交付金等」など)	11,246 百万円	538 百万円 増加
-------------------------	------------	------------

◎資産見返負債とは、運営費交付金、授業料、補助金及び寄附金等により固定資産を取得した際に、運営費交付金債務等の財源ごとに計上されている流動負債(〇〇債務)が取り崩されて計上される固定負債のことです。なお、この負債は減価償却が行われる際、減価償却費(費用)と同額が取り崩され資産見返負債戻入(収益)へと計上されます。この処理を行うことで損益が均衡する仕組みとなっており、国立大学法人会計特有の勘定です。

長期借入金	23,715 百万円	1,024 百万円 増加
-------	------------	--------------

◎借入金とは、法人化以降、病院の再開発事業を行うにあたり、国立大学財務・経営センターから借り入れたものです。3/31現在の債務残高(元本)が長期借入金として計上されていますが、翌期に返済を行う額は流動負債(「一年以内返済予定長期借入金」※P5では「その他」に計上)へ計上されています。

- ・平成22年度は翌期の返済予定額を流動負債へ振り替えたことにより減少しましたが、多額の新規借入を行ったことにより最終的には増加しました。



## 損益計算書の概要

損益計算書って何？

損益計算書とは、一会計期間における本学の運営状況を示したものです。

何がわかるの？

**金額面から見た今年1年間の活動内容**がわかります。  
費用では教育経費でいくら使用したのか、収益では授業料収益をいくらあげることが出来たのか等です。  
最終的には損益均衡を原則としつつも、自助努力によりあげた利益額がわかります。

### 損益計算書(要約)

(単位:百万円)

	費用			収益			
	平成21年度	平成22年度	増減額	平成21年度	平成22年度	増減額	
<b>〈経常費用〉</b>	<b>44,626</b>	<b>46,614</b>	<b>1,988</b>	<b>〈経常収益〉</b>	<b>44,549</b>	<b>47,302</b>	<b>2,753</b>
業務費	42,790	44,617	1,827	運営費交付金収益	15,541	15,321	▲ 220
教育経費	2,124	1,779	▲ 345	学生納付金収益	4,323	4,586	263
研究経費	2,853	3,252	399	附属病院収益	19,607	21,886	2,279
診療経費	12,665	13,548	883	受託研究等収益等	1,391	1,468	77
教育研究支援経費	515	438	▲ 77	寄附金収益	704	643	▲ 61
受託研究費等	1,371	1,303	▲ 68	施設費収益	158	194	36
役員人件費	126	121	▲ 5	補助金等収益	1,160	1,289	129
教員人件費	12,582	13,135	553	資産見返負債戻入	993	1,186	193
職員人件費	10,551	11,038	487	財務収益	10	2	▲ 8
一般管理費	1,205	1,372	167	雑益	658	724	66
財務費用	630	622	▲ 8	<b>〈臨時利益〉</b>	<b>1,296</b>	<b>32</b>	<b>▲ 1,264</b>
雑損	0	1	1	<b>〈目的積立金取崩額〉</b>	<b>504</b>	<b>0</b>	<b>▲ 504</b>
<b>〈臨時損失〉</b>	<b>37</b>	<b>598</b>	<b>561</b>	<b>〈前中期目標期間繰越積立金取崩額〉</b>	<b>0</b>	<b>8</b>	<b>8</b>
経常・臨時 計	44,663	47,212	2,549	経常・臨時等 計	46,351	47,343	992
<b>総利益</b>							
当期総利益	1,687	131	▲ 1,556				
<b>費用・総利益合計</b>	<b>46,351</b>	<b>47,343</b>	<b>992</b>	<b>収益合計</b>	<b>46,351</b>	<b>47,343</b>	<b>992</b>

※百万円未満は切り捨てのため、それぞれの合計額は一致しない場合があります。

#### 【費用】

附属病院収益の増収を目指し、医療スタッフの充実を図ったことに伴う「人件費」の増加や、手術件数が増えたこと等に伴う「診療経費」の増加等により総額で約472億円となり、対前年度比約25億円増加しました。

#### 【収益】

病院の経営努力の結果「附属病院収益」が増加する一方で、「臨時利益」が平成21年度に運営費交付金の未使用額(国庫返納額)を収益として計上する特有な会計処理を行ったこと等による減少により総額で約473億円となり、対前年度比約9億円増加しました。

#### 【当期総利益】

収益と費用の差額、1億3千1百万円が平成22年度の当期総利益となりました。

## 損益計算書の主な増減要因

・前年度と比較した主な増減要因は以下のとおりです。

<b>費用</b>	<b>47,212 百万円</b>	2,549 百万円 増加
<b>〈経常費用〉</b>	<b>46,614 百万円</b>	1,988 百万円 増加
教育経費	1,779 百万円	▲ 345 百万円 減少
<p>◎教育経費とは、学生等に対し行われる教育に要する経費のことです。          具体的には、入学試験、正課教育、就職準備活動、入・卒業式などがあげられます。</p> <p>・教育経費においては、平成21年度に経済学部、環境科学部及び学生会館といった建物が竣工したことにより、教育関連の備品整備等による増加及び学内予算の戦略的配分を行ったことによる増加が、平成22年度は平準化されたことで減少しました。</p>		
研究経費	3,252 百万円	399 百万円 増加
<p>◎研究経費とは、研究に要する経費のことです。</p> <p>・研究経費においては、学内の重点研究課題の支援を行ったことや、学内共同教育研究施設として「先端計算研究センター」を設置したことなどから増加しました。</p>		
診療経費	13,548 百万円	883 百万円 増加
<p>◎診療経費とは、診療報酬の獲得が予定される行為に要する経費のことです。</p> <p>・附属病院については、増収方策により収益が伸びましたが、一方で手術件数の増加等に伴う診療材料費や消耗品費等の増加及び病院再開発事業に伴う資産取得による減価償却費の増加等により費用も増加しました。</p>		
教育研究支援経費	438 百万円	▲ 77 百万円 減少
<p>◎教育研究支援経費とは、大学全体の教育及び研究の双方を支援するために設置された施設において、学生や教員が利用するものの運営に要する経費のことです。          本学では、附属図書館及び情報メディア基盤センターの運営に要する経費を計上しています。</p> <p>・電子計算機システムの利用期間延長に伴い賃借料が増加したものの、減価償却費や図書の除却処理等が減少したことにより最終的には減少しました。</p>		
受託研究費等	1,303 百万円	▲ 68 百万円 減少
<p>◎受託研究費等とは、受託研究、共同研究及び受託事業の実施に要する経費のことです。          なお、この財源にて支給される給与等も含まれます。</p>		
役員人件費	121 百万円	▲ 5 百万円 減少
教員人件費	13,135 百万円	553 百万円 増加
職員人件費	11,038 百万円	487 百万円 増加
<p>◎人件費とは、役員、教員及び職員に対し支払われる報酬、給与、賞与、退職手当等のことです。          なお、受託研究費等を財源として支払われる給与等は含みません。</p> <p>・総人件費改革に伴う人件費削減について取り組みつつ、退職給付費用の増加や、附属病院の増収方策の一環で、医療スタッフの充実を図ったことにより、教員人件費及び職員人件費が増加しました。</p>		
一般管理費	1,372 百万円	167 百万円 増加
<p>◎一般管理費とは、大学全体の管理運営を行うために要する経費のことであり、他の区分に属さない経費は全て計上されます。</p> <p>・平成22年度は、病院本館改修工事に伴う移転費用や、東日本大震災復興支援事業等により増加しました。</p>		

収益	47,343 百万円	992 百万円 増加
----	------------	------------

〈経常収益〉	47,302 百万円	2,753 百万円 増加
--------	------------	--------------

運営費交付金収益	15,321 百万円	▲ 220 百万円 減少
----------	------------	--------------

◎運営費交付金収益とは、国から措置された運営費交付金について行うべき事業を行ったことにより収益として計上したものです。  
 なお、運営費交付金収益は、国の予算措置額及び資産取得の状況が大きく影響します。

学生納付金収益	4,586 百万円	263 百万円 増加
---------	-----------	------------

◎学生納付金収益とは、学生からの授業料、入学料及び検定料について、行うべき事業をおこなったことにより収益として計上したものです。  
 なお、学生納付金収益は、学生からの納付状況及び資産取得の状況が大きく影響します。

附属病院収益	21,886 百万円	2,279 百万円 増加
--------	------------	--------------

◎附属病院収益とは、病院において診療行為を行ったことにより獲得した収益のことです。  
 ・附属病院収益の増収方策の取り組みによる手術件数の増加や在院日数を短縮したことにより、増加しました。

受託研究等収益等	1,468 百万円	77 百万円 増加
----------	-----------	-----------

◎受託研究等収益等とは、受託研究、共同研究及び受託事業により得られた収益のことです。  
 なお、受託研究等収益等は、受入状況が大きく影響します。

寄附金収益	643 百万円	▲ 61 百万円 減少
-------	---------	-------------

◎寄附金収益とは、寄附金を財源として執行したもののうち、費用として計上したものと同額が計上されます。

施設費収益	194 百万円	36 百万円 増加
-------	---------	-----------

◎施設費収益とは、国から措置された施設整備費補助金及び国立大学財務・経営センターからの交付金により学内の各施設を整備した事業のうち、費用として計上したものと同額が計上されます。

補助金収益	1,289 百万円	129 百万円 増加
-------	-----------	------------

◎補助金収益とは、国や地方公共団体等から措置された補助金で行った事業のうち、費用として計上したものと同額が計上されます。  
 なお、補助金収益は、受入額及び資産取得の状況が大きく影響します。

資産見返負債戻入	1,186 百万円	193 百万円 増加
----------	-----------	------------

◎資産見返負債戻入とは、当期または前期以前において、運営費交付金、授業料、補助金及び寄附金等により固定資産を取得したもののうち、当期に計上される減価償却費(費用)と同額が資産見返〇〇金(例:資産見返運営費交付金等、資産見返寄附金等)から振り替えられて計上されたものです。  
 なお、この処理を行うことで損益が均衡する仕組みとなっており、国立大学法人会計特有の勘定です。

〈臨時損失〉	598 百万円	561 百万円 増加
--------	---------	------------

〈臨時利益〉	32 百万円	▲ 1,264 百万円 減少
--------	--------	----------------

◎臨時損失及び臨時利益とは、大学本来の業務活動とは別に発生した損失及び利益のことです。  
 主に固定資産の売却や除却を行うことで発生します。

・臨時損失は、病院本館一部竣工に伴い既存施設の除却処理を行ったこと等により増加しました。

・臨時利益は、平成21年度に運営費交付金の未使用額(国庫返納額)を収益として計上する中期目標・計画期間最終年度の特有な会計処理を行った影響により減少しました。

## キャッシュ・フロー計算書の概要

### キャッシュ・フロー計算書って何？

キャッシュ・フロー計算書とは、一会計期間におけるキャッシュ(お金)のフロー(流れ)を一定の活動区分別に表したものです。

### 何がわかるの？

固定資産取得や借入・返済等の現金の受払が表示されているので、**貸借対照表や損益計算書からは読み取ることができない資金の流れの状況**がわかります。

## キャッシュ・フロー計算書(要約)

(単位:百万円)

<b>I 業務活動によるキャッシュ・フロー</b>		<b>6,132</b>	
・運営費交付金収入	16,328	・原材料、商品又はサービスの購入による支出	▲ 14,861
・学生納付金収入	5,072	・人件費支出	▲ 24,574
・附属病院収入	21,498	・その他の支出	▲ 1,236
・その他の収入	5,087	・国庫納付金支払額	▲ 1,217
・預り科研費の純増加額	36		
<b>II 投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		<b>▲ 9,112</b>	
・有価証券の償還による収入	100	・有価証券の取得による支出	▲ 1,000
・固定資産の売却による収入	83	・固定資産取得による支出	▲ 9,045
・施設費による収入	785	・国立大学財務・経営センターへの納付による支出	▲ 39
・定期預金の払い戻しによる収入	2,000	・定期預金預け入れによる支出	▲ 2,000
・利息及び配当金の受取額	2		
<b>III 財務活動によるキャッシュ・フロー</b>		<b>▲ 721</b>	
・長期借入れによる収入	1,846	・国立大学法人財務・経営センター債務負担金の返済による支出	▲ 665
		・リース債務の返済による支出	▲ 769
		・長期借入金の返済による支出	▲ 514
		・利息の支払額	▲ 617
<b>IV 資金増加額(又は減少額)(I + II + III)</b>		<b>▲ 3,701</b>	
<b>V 資金期首残高</b>		<b>14,814</b>	
<b>VI 資金期末残高(IV + V)</b>		<b>11,113</b>	

※百万円未満は切り捨てのため、それぞれの合計額は一致しない場合があります。

- ・業務活動によるキャッシュ・フロー・・・通常業務の実施により生じた資金の出入りのことです。
- ・投資活動によるキャッシュ・フロー・・・将来に向けた運営基盤の確立のために行われる投資に伴う資金の出入りのことです。
- ・財務活動によるキャッシュ・フロー・・・業務に必要な資金の調達及び返済に係る資金の出入りのことです。
- ・資金期末残高は、貸借対照表中の「現金及び預金」のうち定期預金を除いた額に一致します。

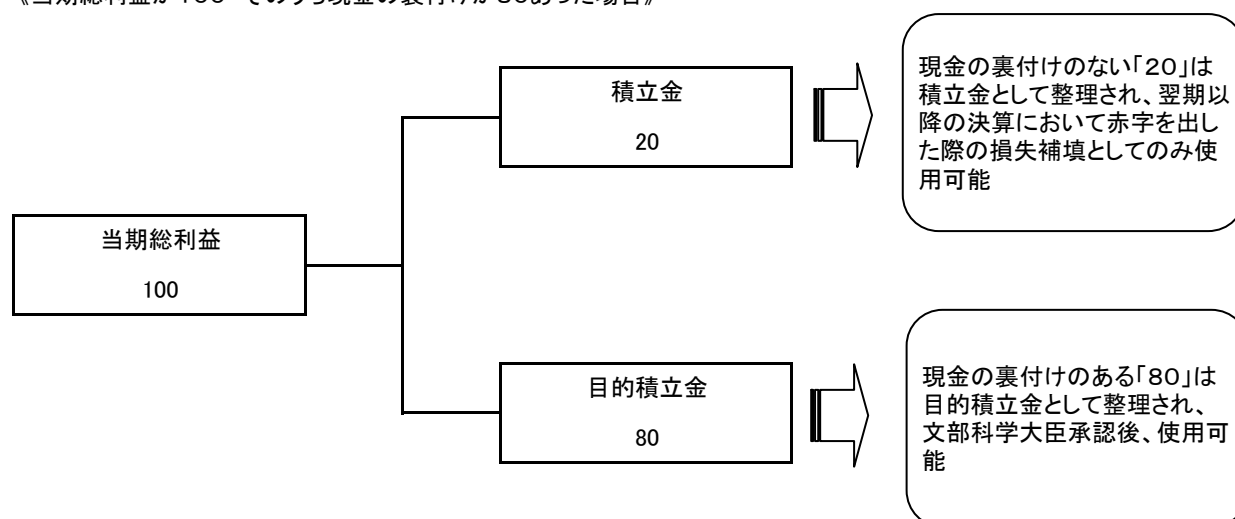
## 利益の処分に関する書類の概要

### 利益の処分に関する書類(要約)

(単位:円)

区分	金額
I 当期未処分利益	
当期総利益	131,312,309
II 利益処分量	
積立金	0
目的積立金	131,312,309

《当期総利益が100 そのうち現金の裏付けが80あった場合》



**ココがポイント！！**

当期総利益が全て、目的積立金になるわけではありません。  
 当期総利益のうち、現金の裏付けがあり、翌期以降の事業に使用する予定があるものだけが目的積立金となります。  
 例えば、病院の運営状況によっては、現金の残額が当期総利益を上回ることがあり、その場合、当期総利益が目的積立金の上限額となります。

## 国立大学法人等業務実施コスト計算書の概要

### 業務実施コスト計算書って何？

業務実施コスト計算書とは、本学の業務運営を行うにあたり、**納税者である国民の皆様からどれだけ負担**をしていただいたのかわかります。

### 国立大学法人等業務実施コスト計算書(要約)

(単位:百万円)

業務に要したコスト		控除額	
・業務費用(損益計算計上額)		・自己収入等	
業務費	44,617	学生納付金収益	4,586
一般管理費	1,372	附属病院収益	21,886
財務費用	622	受託研究等収益	1,468
雑損	1	寄附金等収益	643
臨時損失	598	資産見返戻入(授業料・寄附金)	484
・損益外減価償却相当額等	1,997	財務収益	2
・引当外賞与増加見積額等	306	雑益	407
・機会費用	898	臨時利益	21
業務コスト 計	50,415	控除額 計	29,500
業務実施コスト(業務に要したコストー控除額)			20,915

※百万円未満は切り捨てのため、それぞれの合計額は一致しない場合があります。

この国民の皆様には負担していただいたコストですが、H23.3.1現在の日本の総人口から算出すると・・・国民一人当たり約163円を負担していただいたことになります。

<p>・損益外減価償却相当額等 ……</p>	<p>国から出資された資産の減価償却費は、病院に帰属する資産を除き損益計算書には計上されません。(純資産にて計上) しかし、最終的には国民の負担となっているものと判断し、今年度の費用相当額としてコストに計上したものです。</p>
<p>・引当外賞与増加見積額等 ……</p>	<p>運営費交付金を財源として支給される賞与及び退職給付費用については、引当処理を行わないため損益計算書には計上されません。しかし、最終的には国民の負担となっているものと判断し、前年度末と今年度末との差額を今年度要した費用相当額としてコストに計上したものです。</p>
<p>・機会費用 ……</p>	<p>機会費用とは、国の機関や地方公共団体等と本学相互間において無償使用等を行ったものについて、実際に必要であったと思われる相当額をコストに計上したものです。</p>

## 決算報告書の概要

### 決算報告書って何？

決算報告書とは、1年間の収入及び支出の状況を国の会計ルールに準じた予算区分に応じて作成したものです。

### 何がわかるの？

年度計画時に立てた収入と支出の**見込額(予算額)**がどのような**結果(決算額)**であったのかわかります。  
また、各**予算区分に応じた収入及び支出の執行結果**を見ることが出来ます。

## 決算報告書(要約)

(単位:百万円)

収入	予算額	決算額	差額
運営費交付金	16,380	16,328	▲ 52
施設整備費補助金	1,569	723	▲ 846
補助金等収入	1,517	2,033	516
国立大学財務・経営センター施設費交付金	68	63	▲ 5
自己収入	24,418	27,068	2,650
産学連携等研究収入及び寄附金収入等	2,751	2,821	70
引当金取崩	0	401	401
長期借入金収入	1,875	1,846	▲ 29
承継剰余金	5	0	▲ 5
前中期目標期間繰越積立金取崩	0	3	3
<b>計</b>	<b>48,583</b>	<b>51,286</b>	<b>2,703</b>
支出	予算額	決算額	差額
業務費	39,035	40,278	1,243
施設整備費	3,512	2,632	▲ 880
補助金等	1,517	2,001	484
産学連携等研究経費及び寄附金事業費等	2,751	2,412	▲ 339
長期借入金償還金	1,768	1,739	▲ 29
国立大学法人財務・経営センター施設費納付金	0	40	40
<b>計</b>	<b>48,583</b>	<b>49,102</b>	<b>519</b>
<b>収入－支出</b>	<b>0</b>	<b>2,184</b>	<b>2,184</b>

※百万円未満は切り捨てのため、それぞれの合計額は一致しない場合があります。



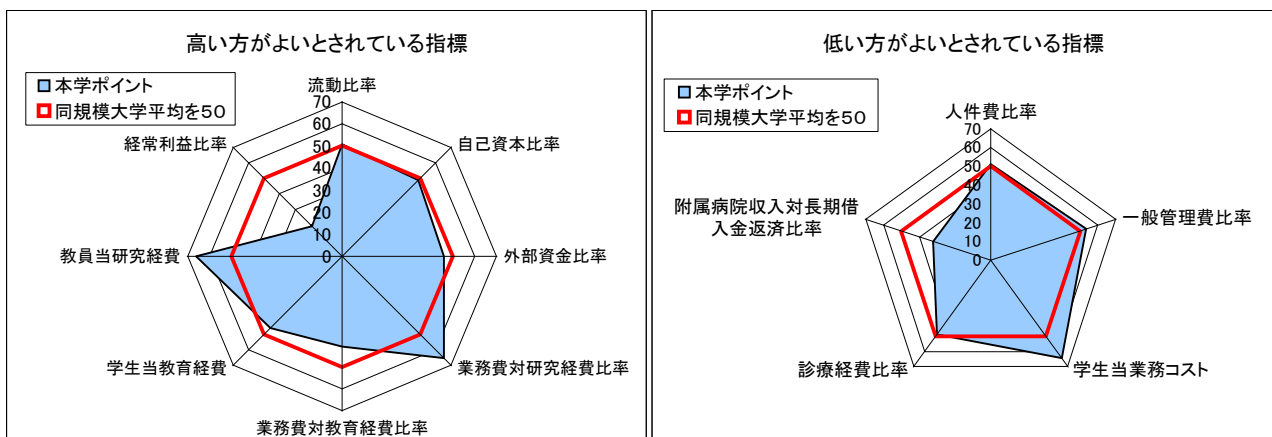
## 主な財務指標

No.	項目	算式	21年度	22年度	22年度 同規模大学 平均	指標の意味
<b>【 高い方がよいとされている指標 】</b>						
1	流動比率	流動資産/流動負債	125.5%	116.4%	115.1%	短期的な支払能力を示す指標。
2	自己資本比率	純資産/(負債+純資産)	56.4%	56.0%	57.7%	総純資産に対する自己資本を示す指標。この比率が大きいほど大学の健全性が高い。
3	外部資金比率	(受託研究収益+受託事業収益+寄附金収益)/経常収益	4.7%	4.5%	4.9%	外部資金収益の経常収益に占める割合を示す指標。この比率が大きいほど外部資金による収益獲得割合が高い。
4	業務費対研究経費比率	研究経費/業務費	6.7%	7.3%	5.6%	業務費に対する研究経費を示す指標。この比率が大きいほど研究活動に使用される経費割合が高い。
5	業務費対教育経費比率	教育経費/業務費	5.0%	4.0%	4.9%	業務費に対する教育経費を示す指標。この比率が大きいほど教育活動に使用される経費割合が高い。
6	学生当教育経費	教育経費/学生実員5/1現在の員数	234千円	196千円	213千円	学生一人当たりの教育規模を示す指標。この数値が高いほど学生一人当たりの教育に要する経費が大きい。
7	教員当研究経費	研究経費/教員実員5/1現在の員数	2,620千円	2,863千円	2,170千円	教員一人当たりの研究規模を示す指標。この数値が高いほど研究活動で使用される経費が大きい。
8	経常利益比率	経常利益/経常収益	-0.2%	1.5%	3.9%	経常収益に対する大学の事業活動によって得た利益の割合を示す指標。この比率が大きいほど事業活動の合理性が高い。
<b>【 低い方がよいとされている指標 】</b>						
9	人件費比率	人件費/業務費	54.4%	54.5%	53.5%	人件費の業務費に対する割合を示す指標。この比率が小さいほど大学の効率性が高い。
10	一般管理費比率	一般管理費/業務費	2.8%	3.1%	2.9%	一般管理費の業務費に対する割合を示す指標。この比率が小さいほど大学の効率性が高い。
11	学生当業務コスト	業務コスト/学生実員	2,292千円	2,302千円	1,790千円	学生一人当たりに係る業務コストを示す指標。この数値が高いほど学生一人当たりにかかる業務コストが大きい。
12	診療経費比率	診療経費/附属病院収益	64.6%	61.9%	63.7%	病院収益に対する診療経費の割合を示す指標。この比率が低いほど病院の収益性が高い。
13	附属病院収入対長期借入金返済比率	(長期借入金返済+財務・経営センター納付金)/附属病院収入	5.7%	5.5%	8.5%	病院収入に対する借入金の割合を示す指標。この比率が低いほど病院の健全性が高い。

※「同規模大学」とは文部科学省による財務分析上の分類で、医科系学部とその他の学部で構成された次の25大学を指す。

弘前大学、秋田大学、山形大学、群馬大学、富山大学、金沢大学、福井大学、山梨大学、信州大学、岐阜大学、三重大学、鳥取大学、鳥根大学、山口大学、徳島大学、香川大学、愛媛大学、高知大学、佐賀大学、長崎大学、熊本大学、大分大学、宮崎大学、鹿児島大学、琉球大学

※22年度において茶文字で標記しているものは、前年度と比較して改善が見られた項目





本件に関する問い合わせ先

国立大学法人 長崎大学  
財務部 財務企画課 財務戦略室 決算班

TEL 095-819-2054  
FAX 095-819-2056  
[yoketu@ml.nagasaki-u.ac.jp](mailto:yoketu@ml.nagasaki-u.ac.jp)